

WEB版 オープンキャンパス

岡山大学教育学部学校教育教員養成課程



OKAYAMA UNIV.

担当：平田仁胤・教授
(教育哲学)

1. 目的

(1) 大学の講義の面白さを体験して欲しい

- ・教育哲学にかんする、大づかみの理解
- ・教育思想を学ぶことによる、視野の広がり
- ・ディスカッション(ケース・メソッド)の意義

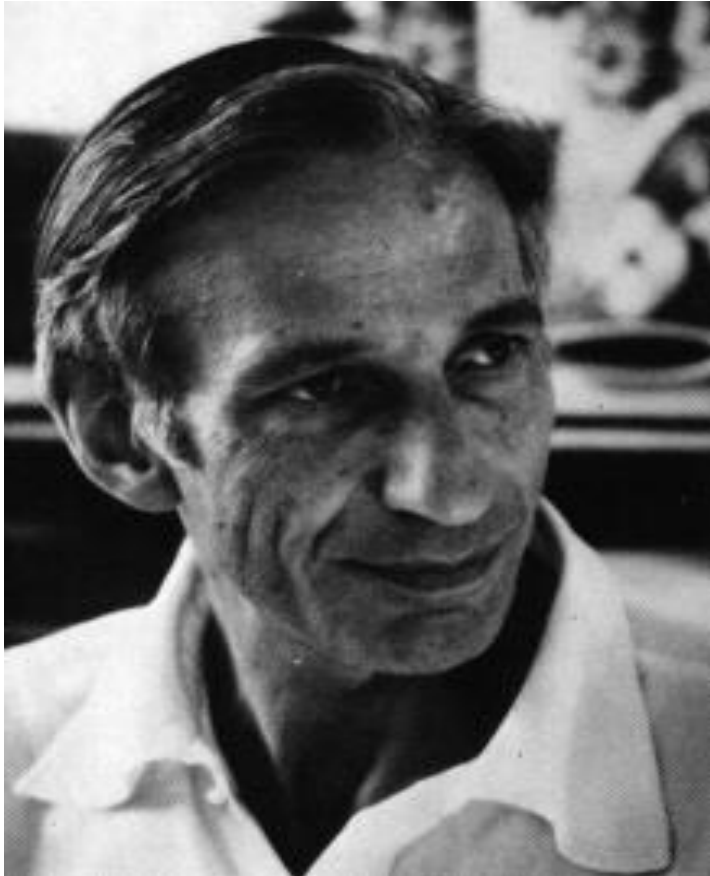
(2) 岡山大学教育学部に進学したいと感じて欲しい

2. 教育哲学？

- 教育を哲学的なアプローチによって考察する
過去思想家を読み解き、現代の教育に示唆を与える
ときとして批判的な問いかけにつながる
- 学校とは何か？

「子どもは学校に行かないといけない」？
「学校で勉強しないと偉くなれない」？

3. 思想家イヴァン・イリッチの言葉



「『**学校化 (schooled)**』されると、生徒は教授されることと学習することとを混同するようになり、同じように進級することはそれだけ教育を受けたこと、免状をもらえばそれだけ能力があること、よどみなく話せば何か新しいことを言う能力があることだと取り違えるようになる。」

(イヴァン・イリッチ、東洋・小澤周三訳『脱学校の社会』東京創元社、1977、p.13)

4. 学校化とは

学校化：学校に依存し、自分で考え、行動できなくなること

「生徒は教授されることと学習することと」

「進級することはそれだけ教育を受けた」

「免状をもらえばそれだけ能力がある」

「よどみなく話せれば何か新しいことを言う能力がある」



◇学校に身を委ね、自分で考えなくなったことによる勘違い

5. イヴァン・イリッチの示唆

「子どもは学校に行かないといけない」？
「学校で勉強しないと偉くなれない」？



むしろ、学校に行くこと、学校で勉強することに**弊害**がある！

◇学校＝**良いことばかりではない**（良いことはもちろんある）
学校を冷静に捉え、その**意義・問題点を根本から考える**

6. ケース・メソッド

- とある事例(ケース)に書かれてある問題を、どうやって解決するかを、受講生が話し合いを通じて考え、よりよい解決策を多角的・多面的に探っていくことで、理論的・実践的な力を高める方法(メソッド)
- 教員は援助者＝受講生が主役
- いわゆる「正解」はない
教員が(隠し)持っている「正解」を当てるゲームではない
- 疑似体験、他者と議論する技術・態度、「修羅場経験」

7. ケース：誰のための学校なのか？

(1) ケースの概要

- 登場人物は、中学3年生のたけし君とその母親。ある夜、お母さんに打ち明ける。「ぼく、もう学校を辞めたいんだ」と。
- 漫画家になるのが夢で、高校に進学するよりも自分の夢を追いかけてい、というのが理由。
- 経済的に厳しい母子家庭で育ってきた。中学1年生のころ1ヶ月ほど学校に行かなかったが、すぐに登校を再開したという経緯がある。その時期に偶然読んだ漫画家のブログに影響を受けてから、ずっと今まで漫画家を目指して努力していた。

(2) あなたが母親なら、たけし君にどう応じますか？

8. 実際のケース・メソッドの様子

- ・たけし君は甘い
- ・たけし君の提案を受け入れる
- ・学校の意義や役割を説く・話し合いを続ける
- ・専門学校や漫画家になるためのトレーニングをつませる・・・etc



- ・たけし君と母親はどんな関係なのか？
- ・たけし君が決断に至った経緯は？



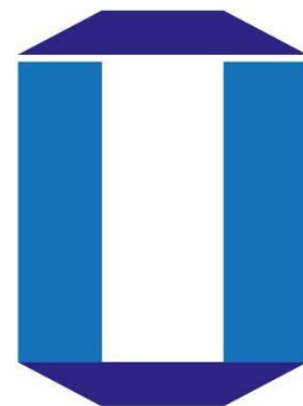
- ・誰のため、何のための学校なのか？（学歴や仕事を得るため？）
- ・いつから自己決定できる大人と言えるのか？

9. おわりに

- 大学の講義の面白さ、少しでも伝えられたでしょうか？
- 岡山大学教育学部には、まだまだ面白い講義がたくさんあります



みなさんにお会いできることを楽しみにしています！



OKAYAMA UNIV.